



環境学生団体 Econista 4年 窪田 夏菜美さん 3年 五十嵐 稀南さん
2年 太田 羽奈乃さん 2年 小幡 和加さん 2年 木下 佳奈さん 他1名

—奨学金の支給対象となった活動内容について教えてください。

廃棄予定の飛沫防止用パネル（アクリルパーテーション）からアクセサリを製作して販売しました。アクリルパーテーションの引取りから、商品開発、アップサイクル後の商品製作、販売体験まで実際に行い、学生が主体となってもものづくりに関わりました。廃材に付加価値をつけてアップサイクルをする活動を通じて、三度のイベント出店のほか、子ども向けの環境教育プログラムの開催や海岸清掃も行いました。産官学が連携した、ごみを出さない循環型社会を目指しています。2024年に品川区の環境保全活動顕彰地域大賞と清泉女子大学の学長賞を受賞しました。

—活動を終え、今どのように感じていますか。

品川区や区内外の企業と連携しながら、アップサイクル品の製作から販売までを学生主体で行い、様々なステークホルダーと連携をすることでプロジェクトを進めることができましたと感じています。また、可能性や活動範囲が広がり、老若男女問わず幅広い世代の方々にアップサイクルを知っていただく機会が増え、環境啓発ができたと感じています。SDGs17の目標にあるパートナーシップの強化を意識したことで、弊団体のミッションである「端材や廃材を自分たちの手でレスキューし、アップサイクルしたものを老若男女問わず多くの人に届ける」が実現できたと感じています。

—この経験を今後どのように活かしていきたいですか。

この活動を通して、学生生活ではなかなか経験することができない、生産から販売までのものづくり工程を体験し、それにかかわる労力や経費の計算まで学ぶことができました。環境配慮型のものづくりの難しさも知りましたが、活動を通して繋がった多くの学生や、企業、地域自治体と連携して、今後もアップサイクルを多くの人に知ってもらえるよう、引き続き出店販売やワークショップ開催に力をいれていきたいと考えています。

—チャレンジ支援奨学金をめざす学生の皆さんへ、メッセージやエールがあれば聞かせてください。

プロジェクトを立ち上げた当初は活動費がなく、やりたいことがあっても金銭的に実現が難しいという課題がありました。チャレンジ支援奨学金をいただき、活動の幅を着実に広げることができました。何か挑戦したい、やってみたいことがある方はぜひチャレンジしてみてください！「挑戦」には勇気と行動力が必要ですが、挑戦した経験は、失敗も成功も全て自分にとって将来の糧になります。皆さんのチャレンジを応援しています！！



2024年2月、品川区の環境保全活動顕彰地域大賞授賞式の様子。（写真中央は森澤恭子品川区長、写真左が旧代表の窪田さん、右が新代表の太田さん）



清泉祭にて開催したアクセサリ作りワークショップの様子。学生や地域の方々に、実際にアップサイクルを体験してもらいました。



回収したアクリルパーテーションから製作したアクセサリ

清泉祭出店時の様子。アクリル素材の透明なアクセサリに、廃材のネイル・染料・箔を使ってデザインを施して販売しました。